

## 活動テーマ

# 地域の人々をつくる『渋川ESDミュージアム』

### 実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、校内で「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、他学年の展示を見合ったり地域の人々に発信したりしている。

#### 1 本校の環境教育について

##### (1) 地域協働で進める環境教育

本校の環境教育の研究主題は、「渋川を愛し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成」である。環境教育で、子どもたちは地域の身近な自然やくらし、文化について学んでいる。この学びを通して、人と人とのつながりを創出し、ふるさとへの愛着や誇りを深めることをねらいとしてきた。

##### (2) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めていることである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。

##### (3) 3つの「つながり」について

###### ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し計画的に実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。

###### イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするかという課題のもと、授業の在り方について研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で世代を越えた地域内外の人との「つながり」も積極的に取り入れている。

###### ウ 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなくて、調べて気づいたことやわかかったことをまとめ、それをもとに身近な環境について考え、行動に移したりする態度の育成を目指している。

#### 2 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。

5年生は、びわ湖フローティングスクールを核に、多方面で活躍されている方々を講師に招き「びわ湖環境学習」を実施し、森・川・田・湖のつながりについて考えた。琵琶湖の学習では、刺し網漁やえり漁の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚を使った郷土料理(アメノイオご飯や湖魚の佃煮)を作ってもらい、それを試

食して味わった。

学習の成果として地域の人々に発信するために「渋川 E(いいまち) S(しぶかわ) D(だいすき) ミュージアム」を開館したり、草津市小中学校給食の献立を考える学習をしたりして滋賀県の食材を生かした郷土料理の良さを広げる活動を行った。

#### 【世界農業遺産学習】

6年生は、滋賀県が登録を目指してきた「世界農業遺産」についての学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を考えることを通して、郷土への愛着や誇りを深めることをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」をテーマに選び、生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。魚のゆりかご水田米の農家さんに出会い、人にも環境にもやさしい米づくりについて話を聞き、炊き立てのゆりかご水田米を味わうことができた。

また、今年も琵琶湖真珠の養殖の技術や歴史について学ぶ機会を得た。琵琶湖の淡水真珠の魅力や価値を知り、三重県への修学旅行で鳥羽市の海の真珠の養殖を学び、比較することができた。滋賀の農業水産の魅力について壁新聞にまとめ、ESD ミュージアムで発信した。



【琵琶湖真珠を実際に触れている様子】

### 3 実施に当たっての工夫

今年度はゲスト講師に学校へ来ていただき、学びを深めることができた。コロナ渦の中で郷土料理を地域コーディネーターや栄養教諭が調理し味わうことができた。琵琶湖のめぐみを味わうことで記憶に残り、自分達の手で琵琶湖を守っていこうという気持ちにつながったように思う。



【郷土料理について講師の講演の様子】

### 4 成果

本報告では、2事例であるがどの学年でも地域の方に協力を得て子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育み、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

### 5 事業実施上の課題と今後の工夫や展望

同じ活動でも、子どもの実態に合わせて内容を工夫する余地がある。「毎年取り組んでいるから…」という活動にならないように、めあてをしっかりと意識して取り組みたい。そして、学んで終わりにならないよう、学習をまとめ、「渋川 E(いいまち) S(しぶかわ) D(だいすき) ミュージアム」の中で地域に発信したり、自分には何ができるかという行動につなげたりしていきたい。

学校名	草津市立渋川小学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp